

1 がんの予防・早期発見

資料 2

(3) がん検診によるがんの早期発見

計画 P 67-68

《第4期大阪府がん対策推進計画における個別目標》

	個別目標	計画策定時の値 【令和4(2022)年】	現状値	2029年度目標値
1	がん検診 受診率	胃がん	令和7年度国民生活基礎調査の結果を受け算出	50%
2		大腸がん		50%
3		肺がん		50%
4		乳がん		50%
5		子宮頸がん		50%
	個別目標	計画策定時の値 【令和2(2020)年度】	現状値	2029年度目標値
6	精密検査 受診率	胃がん	地域保健・健康増進事業報告を受け算出 (令和7年度に令和3(2021)年度分を公表予定)	90%
7		大腸がん		90%
8		肺がん		90%
9		乳がん		95%
10		子宮頸がん		90%

◆大阪府のがん検診受診率は年々向上しているが、依然として全国最低レベルにあり、受診率向上に向けた取組みが必要。

本年度の取組

《市町村におけるがん検診受診率の向上》

- 精度管理センター事業を通じて、個別受診勧奨実施に向けた助言等による支援を実施。
- R5に引き続き、協会けんぽ・大阪がん循環器病予防センター・市町村（3市）と連携し、被扶養者に大腸がん検診キットを配付。集団での特定健診と大腸がん検診を同時実施し、被扶養者の大腸がん検診受診促進事業を実施。【R6年度：317人が受診】
- 肺がん検診の二次読影の実施が難しい市町村に対して、二次読影を代替実施。【R6年度：2市 984件（R7.1月末時点）】
- 市町村が受診勧奨をより効果的に行うため、専門家を招聘した市町村職員向けの研修会を開催。【R6.8：28市町村 41名参加】

《がん検診の精度管理の充実》

- 市町村における検診の精度向上を目的として、検診結果等のデータを収集・分析し提供。
- 精検受診率が基準値を下回る市町村へ通知文を発出。また、精検受診率が許容値を下回り、令和5年度に通知を発出した10市町村に対して、課題への取り組み状況及び効果について調査を実施。
- 市町村に対し、国の指針に基づくがん検診の実施に向けた助言・情報提供を実施。
- R5に引き続き、民間との共催で、医師を対象とした肺がん検診の精度向上に向けた胸部X線読影講習会を実施。【R6年度：356名に受講証発行】

《職域におけるがん検診の推進》

- がん検診受診推進員を活用したがん検診の普及。（連携企業10社 12,673人【R6.3月末時点】）
- がん対策推進企業アクションの推進パートナーとして、中小企業の経営者を対象としたセミナーの開催を支援。【R6.10～11月 計4回開催】
- 大阪公立大学と連携し、女子学生を対象に子宮頸がん検診の受診を促すとともに、がん検診の重要性について理解してもらう啓発事業を実施。【R6年度：16名受診】



▲大腸がん検診啓発チラシ



▲大阪公立大学での子宮頸がん検診啓発チラシ



▲連携企業によるがん検診の普及活動

課題等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受診率は向上しているものの、依然として全国と比して低位。 ■ 職域におけるがん検診は、受診率や実施方法等の実態把握が困難。 ■ 肺がんの二重読影の実施要件を満たす医師の確保が困難な地域があり、肺がん検診の受診者数が伸び悩んでいる。
次年度の主な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ R 6 に引き続き、協会けんぽ・大阪がん循環器病予防センター・市町村（3市）と連携し、被扶養者の大腸がん検診受診促進事業を実施。 ■ R 6 に引き続き、大阪公立大学と連携した子宮頸がん検診の受診に関する啓発事業を実施。 ■ R 6 に引き続き、肺がん検診の二次読影の実施が難しい市町村の二次読影体制の支援を実施。 ■ メディアや連携企業等と協力し、がん検診の受診を促進する大規模なPRイベントを実施。
最終予算（案） （主要事業）	<p>がん検診精度管理委託事業（57,354千円）、組織型検診体制推進事業（11,798千円）、がん検診普及事業（1,504千円）、がん検診受診促進事業（2,768千円）、職域におけるがん検診受診率向上事業（2,582千円） 二次読影体制モデル事業（1,789千円）</p>